

コロキウム 2014 提言

口腔保健におけるライフコースアプローチ

深井保健科学研究所

第 13 回コロキウム「口腔保健におけるライフコースアプローチ」

2014 年 8 月 10 日（日），東京，日本

口腔疾患と生活習慣病（NCDs: Non-communicable diseases）はいずれも、個人の生活習慣・行動、環境、および社会経済的要因に影響される疾患である。これらの予防可能な疾患に対する成人期の健康政策は、長寿社会における持続可能な社会保障制度を維持するための主要な健康課題の一つとなっている。

ライフコースアプローチは、成人期以降の生活習慣病を、胎児期・小児期からの長期間にわたるリスクの蓄積や連鎖によってその発症を説明し、その対処を図るアプローチであり、科学的根拠も示されるようになってきた。

口腔疾患は、これまでライフステージ別に、目標と評価を行うことで成果を上げてきたが、NCDs との共通リスクファクターへの対応をより効果的に行うという観点から下記の提言を行う。

1. 口腔保健におけるライフステージ別対応に加えて、ライフコースアプローチに基づく具体的取り組みを促進する。
2. 胎児・乳幼児期および小児期からのリスク因子と口腔疾患が、成人期以降の口腔の健康に対する影響を明らかにし、ライフコースを通じた口腔疾患のリスクモデルを確立するための研究を促進する。
3. 口腔疾患および NCDs の発症機序並びに関連因子を、aging 等の生物学的要因と社会的決定要因を統合して解明するためのライフコース疫学研究を促進し、その科学的根拠の蓄積を図る。
4. 効果的で効率的な疾病予防の観点から、口腔疾患および NCDs の共通リスクファクターに対して、ライフコースアプローチを通して、より早期から多職種が相互に取り組むための社会保健システムの構築を追究する。

The life-course approach in the field of oral health

Adopted at the 13th Fukai Institute of Health Science (FIHS) Colloquium,
10 August 2014, Tokyo, Japan

The main determinants of both oral diseases and non-communicable diseases are behavioral, environmental, and socioeconomic factors. Formulating an effective and efficient health policy which helps adults cope with these preventable diseases is a major challenge for maintaining a sustainable social security system in an aging society.

The life-course approach is a new paradigm in which the prevalence of NCDs among adults is determined by the long-term accumulation or continuation of health risks throughout life, beginning from the fetal stage. There is already a growing body of empirical evidence supporting this approach.

In the past, oral health practice and policy goals were set separately for each life stage, but the life-course approach is likely to be a more effective approach to common risk factors of oral health and NCDs.

With this in mind, our 2014 statement sets the following goals for research and policy in the coming year:

1. To facilitate concrete practice and policy change in the dental field based on the life-course approach. It is hoped that this new approach can supplement and be integrated with the existing life stage approach.
2. To investigate the influence of childhood and fetal health risk factors and oral diseases on adult oral health, and to develop a risk model which shows how the accumulation of these factors over time affects oral health later in life.
3. To develop life-course epidemiology, which integrates biological factors such as aging and social health determinants, and use it to accumulate further evidence regarding the pathogenesis and risk factors of oral diseases and NCDs.
4. To establish a more effective and efficient health care system based on the life-course approach. This system would take into account the common risk factors of oral disease and NCDs from an earlier stage and involving more collaboration among health professionals and institutions in various health-related fields.



深井保健科学研究所第13回コロキウム

口腔保健におけるライフコースアプローチ

- ◆日程：2014年8月10日（日），10：30 受付
- ◆会場：東京国際フォーラム，ガラスホール棟6階 G602 （JR有楽町駅下車）
- ◆主催：深井保健科学研究所

◆開催主旨

生活習慣病（NCDs）の予防に寄与する歯科口腔保健は、わが国の政策課題の一つである。ライフコースアプローチは、「成人における疾病の原因を胎児期、乳幼児期、およびその後の人生をどのような環境で過ごし、どのような軌跡をたどってきたのかという要因で説明しようとする学問」である（藤原，2007）。すなわち、成人期の疾病の発症を胎児期からのリスクの蓄積で説明し、リスク低減の方策を追究する手法のひとつとして注目されている。

一方、歯科疾患は蓄積性の疾患とこれまで捉えられていて、小児期からのう蝕予防をはじめとする対策が、歯の喪失防止および口腔機能の保持にかかわる生涯保健に有効である。しかしながら、歯科領域で小児期からの口腔保健が、成人および高齢期にどのような影響を与えるかについては、これまで検証が十分ではない。

また、う蝕、歯周病、歯の喪失という口腔疾患は、発病時期が異なり、例えば、歯周病が、他のNCDsと同様に中高年以降に重症化する理由、あるいは歯の喪失が、なぜ加齢と共に増加するのかというシンプルな疑問に対して明確な回答が得られているわけではない。このように疾病を胎児期小児期からのリスクの蓄積と捉えそのエビデンスを集積するには、世代効果、時代効果、生物学的要因等を考慮した疫学的解析が必要である。

そこで、本コロキウムでは、ライフコースアプローチの観点から、歯科疾患および生活習慣病（NCDs）の疫学像を捉えなおし、両者に対する一体的なリスク低減の方策と健康政策上の位置づけについて議論し、現時点の整理を試みたい。

- ◆会費：コロキウム参加費 5,000円，懇親会参加費 4,000円
- ◆事前申し込み（メールで送信）：fukaik@fihs.org
- ◆問い合わせ先
〒341-0003 埼玉県三郷市彦成3-86
深井保健科学研究所 深井穂博 048-957-3315

◆プログラム

11:00-11:05 開会, 主旨説明 深井 穂博 (深井保健科学研究所)

11:05-13:15 ヘルスサイエンス・ヘルスケアの最新トピックス (口演発表各 15 分)

座長 吉野浩一 (横浜銀行)

1. 遠藤眞美 (九州歯科大学) 高齢者のドライマウス
2. 白田千代子 (東京医科歯科大学) なぜ、病棟での口腔ケアを推進しなければならないか
3. 百合草健志 (静岡県立静岡がんセンター) がん治療における歯科支持療法—がん診療医科歯科連携

座長 田村光平 (東京都葛飾区保健所)

4. 恒石美登里 (日本歯科総合研究機構) 高齢者・要介護者および医科疾患患者の歯科医療ニーズ—平成 23 年統計データ分析結果より—
5. 高柳篤史 (高柳歯科医院) フッ化物の複合活用

座長 内藤真理子 (名古屋大学医学部)

6. 川崎弘二 (大阪歯科大学) 音楽と口腔保健
7. 大山篤 (神戸製鋼) 産業歯科保健に関する最近の話題
8. 野村義明 (鶴見大学) 唾液検査値から医療費の予測

13:15-14:00 ランチタイム, 深井保健科学研究所報告

14:00-16:45 シンポジウム - 口腔保健におけるライフコースアプローチ

座長 深井 穂博 (深井保健科学研究所)

●主旨説明・課題提起 深井 穂博 (深井保健科学研究所)

●話題提供

1. ライフコース疫学の展開 (30 分) 相田 潤 (東北大学)
2. 歯科疾患の疫学 (各 20 分)
 - う蝕の疫学 神原正樹 (大阪歯科大学)
 - 歯周疾患の疫学指標—課題と展望 伊藤博夫 (徳島大学)
 - 歯の喪失の疫学 安藤雄一 (国立保健医療科学院)
3. NCDs と口腔保健 (各 20 分)
 - 生活習慣病の疫学 - メタボ対策の成果 岡本悦司 (国立保健医療科学院) (誌上参加)
 - NCDs と口腔保健との関連性 花田信弘 (鶴見大学)

●指定発言およびディスカッション (30 分)

口腔保健におけるライフコースアプローチと NCDs

●まとめ (5 分)

FIHS Policy Statement 2014

17:00 閉会

17:30 懇親会 (別会場: だん家国際フォーラム前店、03-5219-8655)

